

IP時代における電気通信番号の在り方に関する研究会
ワーキンググループ（第8回）議事要旨

1 日 時

平成18年3月2日（木）10：00～11：30

2 場 所

総務省 低層棟1階 第1会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

相田 仁（リーダー）、荒本 和彦、粟野 友文（代理 吉田 敦）、一井 信吾、大熊 博之（代理 江口 敏一）、加藤 義文、川上 順久、川西 素春、川村 正道、小出 利一（代理 渋谷 直樹）、佐野 晋、清水 博一、白澤 進（代理 加藤 明）、内藤 郁夫、中野 尚（代理 船木 滋）、中村 泰士、西川 嘉之、藤岡 雅宣（代理 小田 稔周）、堀内 泰樹（代理 清水 純一）、丸林 憲一、山田 博（以上21名）

(2) 総務省

渡辺電気通信技術システム課長、門馬番号企画室長、事業政策課富岡課長補佐、番号企画室吉田課長補佐、上野番号企画係長、藤原番号管理係長

(3) オブザーバー

横浜市総務局IT活用推進部電子市役所推進担当齋田課長

4 議事概要

(1) 第7回ワーキンググループ議事要旨の確認

資料WG8-1について説明がなされ、意見等あれば平成18年3月8日（水）までに連絡することとなった。

(2) 第6回番号研究会（2/6）審議状況

- ・ 資料WG8-2により、平成18年2月6日に開催された第6回IP時代における電気通信番号の在り方に関する研究会での審議状況について報告がなされた。
- ・ 研究会での議論を踏まえ、次回WGにおいては、報告書案について検討することとなった。

(3) 行政に対する問い合わせ用1XY番号について

資料WG8-3、行政に対する問い合わせ用1XY番号について（修正案抜粋）に

基づき説明が行われた。

引き続き行われた議論の概要は、以下のとおり。

- ・ 全国的に統一したサービス条件の策定等について、自治体と関係事業者の間の連絡調整の場を作って、そこで調整されたものをサービス提供していく方向性として。
- ・ 実際のサービスを始める前に、実験的なもの（トライアル）等をしてサービス条件等の検討をしていくべき。
- ・ サービスの詳細、どれぐらいのバリエーションが有るのがわかってこない、どれぐらいの範囲でPSTNが対処できるのかが見えて来ないので、開発等を行うにしても難しい面もあるが、サービスを始める前に実験的なものを行う等工夫することで可能。
- ・ サービスを始める前の実験的なものであったとしても費用はかかるため、費用負担についても、連絡調整の場で自治体等と協議すべき。

(4) インターネット電話への転送について

総務省から、資料WG8 - 4に基づき、説明が行われた。

引き続き行われた議論の概要は、以下のとおり。

- ・ 単語の定義について明確にし、書きぶりに統一性を持たせることが必要だと思う。
- ・ Skypeのホームページ上でSkypeユーザに電気通信番号を振りだしている様に見える点について、確認の上、次回会合において報告されることとなった。
- ・ 報告書の方向性については、総務省案により進めることで了承された。

(5) 新規サービス受付への1XY番号の使用について

各社営業案内用番号への接続の可否

総務省から、資料WG8 - 5に基づき説明が行われた。

新規サービス受付への1XY番号の使用について

西川構成員から、資料WG8 - 6に基づき説明が行われた

引き続き行われた議論の概要は、以下のとおり。

- ・ 今回の論点がPSTNのみとなっているが、ブロードバンド上での電話(050番号)や光アクセスも増えてきている。

(6) FMC等の電気通信番号について

FMC着信における課金方式

船木構成員代理から、資料WG 8 - 7に基づき説明が行われた。

F M Cに係る着信網別柔軟課金のための開発コスト等について
総務省から、資料WG 8 - 8に基づき説明が行われた。

0 A B ~ J 番号を使用したF M Cサービスの実現の方向性について
渋谷構成員代理から、資料WG 8 - 9に基づき説明が行われた。

引き続き行われた議論の概要は、以下のとおり。

- ・ 既存番号については、料金設定権について検討が必要なほか、0 9 0回線と0 5 0回線を組み合わせた場合など異なる番号を組み合わせた場合に、事業用設備規則の適用等、制度面の課題整理も行うべきではないか。
- ・ 既存番号について、例えば携帯番号でV o I P回線に着信した場合など、料金が安くなる場合には柔軟課金が前提という議論はあったが、逆に0 A B ~ J 番号や0 5 0番号を使って通話料が高い回線に落ちた場合、実際の料金として高い料金になって良いものか。
- ・ 地理的識別や社会的信頼性については、親会では、ガイダンスを入れても問題との意見が大勢だったが、料金識別についても、050 番号や0AB-J 番号など料金のイメージが出来ている番号については、高くなる場合にガイダンスを入れれば良いとは限らないのではないか。
- ・ P B Xを使用する場合の改修コストは、大丈夫か。P B Xの対応等を踏まえると、0 A B ~ J 番号や0 5 0番号については、これらの番号で想定される範囲内の料金でつなぐということであれば、近い将来での対応は難しいのではないか。
- ・ 0 A B ~ J 番号は絶対ダメだという書きぶりは良くない。様々な環境を考えた上で、「成熟するまでは好ましくない」という程度の言い方でどうか。

これらを踏まえ、制度面での課題整理や柔軟課金（P B X側の対応可能性も含む。）について、アドホックグループを開催し、検討することとなった。

(7) 次回会合スケジュールについて

次回のワーキンググループ会合（第9回）は、報告書案を審議することとし、本年3月下旬以降を予定しており、詳細については別途連絡されることとなった。

以上